

事例6 単元「段落のつながりに気をつけて読もう」 ～「かむ」ことの手～

活用力を育む国語の授業づくり

国語 第4学年
小松市立安宅小学校

1 事例の概要

本校では「活用力」を育むために、文章を読んで自分なりの考えをもち、それを表現することが苦手であるという児童の実態から、国語科の「読むこと」の授業づくりを中心に言語能力の育成を図ることとした。

1年目である今年度は、説明的な文章の読みを中心に研究を進めた。

まず、「読むこと」の基礎基本が確実に身に付くよう6年間の指導の系統性を洗い出し、「読むこと」のねらいを明確にした。

つぎに、教材文を読み取った後に、目的に応じて自分の考えを書く場を、活用力を育成する場（活用の場）として設定するような単元構成の工夫を図った。この活用の場を児童の興味関心が持てるゴールの活動とすることで、目的がはっきりし、子どもたちの学習意欲が高まり主体的に学習を進めることができると考えた。そして、活用することでねらいとする「読むこと」の基礎基本の定着が図られると考えた。

また、考えを交流する場を大切にし、自分の考えを広げたり深めたりできるようにした。

本事例も3年生までの既習事項を踏まえて本教材を読み、書いてあったことを目的に応じて自分の言葉で書き直し、他に伝える活動を取り入れた実践である。

A-1 学校研究

A-2 研究構想図

A-3 活用力を育成する国語科の単元構成

2 実践内容

(1) 単元の目標

段落ごとの内容とそのつながり、段落相互の関係に着目しながら読むことができる。

(2) 指導上の工夫点

- ① 系統性をふまえた指導の工夫
 - ・本教材に入る前に他教材で既習事項を確認する。
- ② 「読むこと」のめあての明確化と意欲を高める導入の工夫
 - ・学習計画を児童とともに立て、見通しを持たせる。
 - ・考えたくなるような教材提示の工夫をする。
- ③ 説明的な文章の基礎的基本的な読み方を習得するための工夫
 - ・段落ごとの要点をまとめたり、文章全体をとらえさせたりするワークシートの工夫をする。
- ④ 活用の場を取り入れた単元構成の工夫
 - ・教材文の読み取りの後、筆者の主張を自分の考えと比べながら感想をまとめる。
 - ・「読むこと」で習得した知識を自分の言葉で他に伝えるような書く活動を取り入れる。
 - ・書いたものを交流したり発表したりする場を工夫する。

B-1 ワークシート

3 指導の実際

第一次	既習事項の確認をする。	○既習事項の確認をしながら『ヤドカリのすみかえ』を読む。	①「問い」と「答え」の段落・接続語などを確認したことで本教材の段落構成がつかみやすかった。
第二次	中心となる語や文、段落相互の關係に注意して、文章を正しく読む。	○教材文について興味をもつ。 ○学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 ○ばらばらにした文章を並べ替える。 ○形式段落ごとに要点をまとめ、段落相互の關係を考え、まとまりを作る。 ○文章構成やそれぞれの役割を知る。 ○『「かむ」ことの力』を読んで、自分の体や生活について考えたことを書く。	②段落を並べ替えることで接続語や順序を表す言葉に注目できた。 ③キーワードを見つながら要点をまとめた。
第三次	「かむ」ことのよさを伝えるパンフレット作りをおこなう。	○「かむ」ことのよさを家族や友だちに伝えるためのパンフレット作りをする。	④自分の知識や経験と照らして考えることができた。 ⑤伝えたいことを「中1」「中2」からひとつずつキャッチコピーにして表したことで教材文を簡潔に自分の言葉で表すことができた。

C-1 指導案

C-2 授業の様子

4 成果と課題

(1) 成果

① 既習の定着

- ・本教材よりも短い説明的な文章で教師と共に既習事項を確認したことで、既習を使ってさらに複雑な説明的な文章である本教材も、「読むこと」の視点がわかり、自力で段落を順序よく並び替えることができた。
- ・日常生活の中で意識して学んだ用語を使わせたり、学習したことを掲示したりしておくことで、学習したことの定着を図ることができた。

② 学習意欲の向上

- ・どんな力をつけるかを確認し、児童とともに学習計画を立てたことで、見通しを持って学習を進めることができ、意欲を持続することができた。
- ・教材提示の工夫により、解決する必要感を持ち、意欲的に課題解決に向かうことができた。

③ 「読むこと」の基礎基本の習得

- ・段落の要点の見つけ方を指導し、教師とともにていねいに書いていったことで、次第に自分の力で書けるようになった。また、自分の考えを必ず書き、友達と交流しながら見直したことで、学び合いながらよりよいものにしていくという意識をもつことができた。

④ 自分の言葉で書く

- ・複数のかむことのよさから一つを選ぶことが自分なりの考えや判断力を育てる場となった。

(2) 課題

- ・単元のねらいが達成されるような活用場面の工夫と、どの子も取り組むことができるような書くための支援やワークシート等の工夫を図りたい。